

令和7年度 第4回 江府町学校運営協議会 議事録

■期 日:令和 8 年 3 月 17 日(火)

■時 間:19:00~20:00

■場 所:日野川校舎 多目的ホール

<会議出席者>

【委員】宮本会長、井上裕吉副会長、井上廉女委員、北村委員、高津委員、船越委員、藤原委員、加藤浩美委員、川端委員、加藤千恵子委員、景山委員

(欠席:遠藤委員)

【事務局】持田指導主事、稲村副校長、山本教頭、竹田 CSD

1 開会 宮本会長挨拶

2 報告 学校より(景山校長先生)

・卒業式、巣立式(19日実施予定)について。

各部会より

健全育成部(稲村副校長)

・4月こいのぼりボランティア実施予定。

地域活性化部(井上副会長)

・十七夜ポロシャツのデザイン現在 21 点の応募。

・4月25日実施 毛無山カタクリツアーの募集について。

3 協議

令和8年度 学校経営方針について

① 令和8年度奥大山江府学園の学校経営方針 説明(景山校長)

② 質疑・応答

委員	小学校低学年(1~3年生)でも教科担任制(担任以外の先生が教える形)をとっているのか。
景山校長	1年生から実施しており、例えば音楽などは担任外の専門教員が指導している。すべての教科を担当が抱えるのではなく分担することで、授業の質を上げつつ教員の負担を調整し、高学年では中学校の英語や美術の教員が小学校で教えるなど、本校の恵まれた環境を活かした指導を行っている。
委員	「学級王国(担任一人の閉鎖的な指導)」を防ぎ、複数の教員の目で子どもを見ることで、指導の定着や規律の確保に繋がるのでとても良いと思う。また、めあて・まとめ・ふりかえりが合致することで「わかる授業」となるのでその点も大事だと思う。

委員	「放課後個別学習」について、子どもたちが放課後に質問できる環境は非常に有効だと思う。ただ、教員の働き方改革もあり先生方だけでは多忙すぎるのでは。経営案にある「地域人材の活用」として、町内の教えることができるボランティアを募り、直接指導してもらおう場を作ってはどうか。
景山校長	現在は特に1~3年生を対象に、すべての教科の土台となる「読み書き」の困難さを克服するための個別支援を重点的に行っている。 上の学年では生徒同士で教え合う「オンスタ」もあるが、自分たちだけでは限界があるのも事実である。教員が指導するのが最も効果的ではあるが、部活動等の時間制約もあるため、地域の方に学習支援ボランティアとして入っていただく仕組みは非常に有効だと考える。

委 員	「ふるさとキャリア学習」において、既存の「奥大山マスターブック」をもっと活用してはどうか。また、去年は全体行事が少なかったように感じるが、ふるさと教育を兼ねた「遠足」を復活させてほしい。
景山校長	遠足について、遠足の効果は認めているが、準備負担も考慮する必要がある。例えば、地域の方に運営側で協力いただく等の形であれば持続可能かもしれない。遠足という形にこだわらずとも、1～9年生の「縦割り班(色別)」活動を充実させるよう考えていく。

③ 承認 全会一致で承認。

4 その他

なし

5 閉会